

# 伝統工芸の国・筑後

福岡県のなかでも、筑後地方には伝統的な工芸の技術が特に数多く伝えられていることをご存じでしょうか。分かりやすい目安として、行政が指定する福岡県下の伝統工芸品を考えてみましょう（福岡県のホームページに掲載される「福岡県の伝統工芸品」の項目によって、どなたでも詳細がご覧になります）。

まず、経済産業大臣指定伝統的工芸品といかめしい名が付けられているのは、国が指定する福岡県の伝統工芸品で、小石原焼（朝倉郡東峰村）、博多織（福岡市）、○八女福島仏壇（八女市）、○八女提灯（八女市）、博多人形（福岡市）、○久留米餅（久留米市・八女郡広川町）、上野焼（田川郡福智町）の七つが数えられており、○印を付したとおり、うち三つが筑後地方で産する工芸品です。次に、福岡県知事指定特産工芸品・民芸品、すなわち県が指定するのは、合計三十四品目ありますが、地域ごとに見てゆくと、福岡地域からは博多曲物（福岡市）、博多鋏（同）、津屋崎人形（福津市）など計九つが、北九州からは孫次風（北九州市）、八朔の馬（遠賀郡芦屋町）の二つが、筑豊からは英彦山（田川郡添田町）の一つが指定されているのに対して、

夫と技術とがあつたことが思われます。実に誇らしいことです。

しかし、伝統と呼ばれるものは多く、時代の変化とともに忘れ去られ、継承継続することが難しくなるのが世の習いです。私は仕事柄、普段から江戸時代の書物を手にかけていますので、自然と古いものへ関心が向き、昔から伝わる技術にも親しみを覚える方ですが、それでもなお、深く理解するまでには至っておりません。古い文物と縁遠い生活を送る人々には、伝統工芸はなおさらとつきにくいものと考えられがちではないでしょうか。

久留米大学では、文化財保存科学研究会を中心に、これまで筑後の伝統工芸（特に久留米餅と八女の手漉き和紙）の高度な技術を見つめなおし、国の内外へ紹介する活動をしてきました。本パンフレットは、そうした取り組みや、その過程で得たさまざまな知見を小文にまとめ、広く読んでいただくうとするものです。ここに掲載する小文によって、筑後が誇る伝統工芸の数々に一人でも多くの人の関心が向けられることを、私たちは願ってやみません。それが、伝統の継承と存続を支える何よりの力になると考えるからです。

（文学部国際文化学科・日本近世文学専攻・大庭卓也）

岡にオリジナルデザインの新尺玉提灯や久留米・八女の「ゆるキャラ」をあしらった長提灯の展示ブースを設けて多くの来場者を迎えた他、十一月四日のステージ発表では学生代表が八女提灯の特徴や魅力、新作のセールスポイントや苦心点などを語ってくれました。

全国大会への参加で、私たちは八女提灯をアピールするとともに、八女ひいては筑後地方そのものへの理解をも深めることが出来たと考えています。大会は好評のうちに終了しましたが、久留米大学はこれに止まらず、伝統工芸に代表される筑後地方の大きな魅力をますます広く発信し続けてゆきます。

（文学部国際文化学科・日本語学専攻・矢毛達之）

- 1 シラキ工芸での提灯製造の様子。写真は外貼りの工程。
- 2 伝統的工芸品月間国民会議全国大会（平成三十年十一月四日）におけるステージ発表の様子。
- 3 同大会の久留米大学展示ブース設置の様子。
- 4 同大会に取り組んだ久留米大学のメンバー。前列右より矢毛、大庭、その他は国際文化学科二年の学生諸君。

筑後からは実に二十二品目が数えられています。いまそれらすべてを列挙してみます。

- 藍胎漆器（久留米市） きじ車（みやま市）
  - 八女手漉和紙（八女市ほか） 八女石灯ろう（八女市ほか）
  - 掛川（花莫塵）（三潴郡大木町ほか） 赤坂人形（筑後市）
  - 鍋島緞通（久留米市） 柳川神棚（柳川市）
  - 八女竹細工（八女郡広川町ほか） 筑後和傘（久留米市ほか）
  - 八女和ごま（八女市） 杷木五月節句幟（朝倉市）
  - 八女矢（八女市ほか） 城島鬼瓦（久留米市）
  - 久留米おきあげ（久留米市） 大川総桐タンス（大川市ほか）
  - 大川彫刻（大川市） 大川組子（大川市）
  - 柳川まり（柳川市） 棕櫚箒（うきは市）
  - 八女すだれ（八女郡広川町ほか） 天然樟脳（みやま市）
- 以上は、先にも述べたように、行政によって指定されたものに過ぎず、わが筑後地方にはこれら工芸品以外にも、さらに多くのものを作り出す創意工

## 八女提灯、全国への発信

豊かな自然環境に恵まれ、人々が穏やかに暮らす筑後地方には、地の利、人の和を活かした数多くの手仕事は今も息づいています。

その中でも八女提灯は、外張りの和紙と骨組みの竹細工という八女古来の職人技によって作製される逸品で、二百年を超える歴史と高い品質とを誇る、国の「伝統的工芸品」にも指定されています。この国指定「伝統的工芸品」への理解と普及を進めるため、経済産業省主催で毎年行われている「KOUGEI EXPO 伝統的工芸品月間国民会議全国大会」が平成三十（二〇一八）年十一月二日・四日に福岡市で開催されました。久留米大学も、八女商工会議所・八女提灯協同組合と協力してこの大会に参加し、学生のアイデアによる新作展示を中心に伝統と新しい感性とのコラボレーションを目指しました。具体的には、文学部国際文化学科の学生有志と教員とで、同年四月から座学で八女提灯の歴史と特色について学び、九月には実地研修として八女伝統工芸館（八女市本町）と製造・販売元のシラキ工芸（同市緒玉）へ足を運んで、八女提灯が出来るまでには様々な工程があることを改めて認識しました。これらの経験を基に皆で真剣な討議を重ね、本大会では会場のマリンメッセ福



1



2



3



4

伝統工芸の国・筑後  
第二号



久留米大学文化財保存科学研究部会

〒839-8502 福岡県久留米市御井町1635

<http://kurumbunkazai.jp/>

令和2年3月20日発行

印刷：城島印刷株式会社  
〒810-0012 福岡市中央区白金2丁目9番6号



6



5



8



7



9

- 5・6 学生諸君のデザインによる長提灯。表には久留米市のゆるキャラ「くるっば」を、裏には後ろ姿の影を配した。
- 7・8 同じく学生デザインの長提灯。八女市のゆるキャラ「やめ茶丸」と「みどりちゃん」。
- 9 同じく学生デザインの尺玉提灯。久留米餅と久留米のつじの花をあしらった(高橋典枝さん考案)。